

人文会ニュース

1988. 1

アメリカの図書館瞥見記 小川俊彦 1

人文書講座XIV

社会心理学の分類と研究領域の紹介
..... 齊藤 勇 8

「人文会ニュース」50号記念特集

編集担当者が綴る「人文会ニュース」50号の歩み

中平千三郎 / 相田良雄 / 石橋雄二 / 醍醐隆 /

菊池明郎 / 神田治 / 原田敦雄

21

四国研修旅行報告 大月書店 原田敦雄 36

書店閉店ラッシュ 二年間に五軒がやめた駅前商店街
..... 村上信明 40

50

業務用

翔ぶ 伝統芸能

TOBU Traditional Performing Arts in Japan

森田拾史郎写真集
MORI TOSHIO PHOTOGRAPHS

●内容見本呈

エッセイ 観世栄夫・山本東次郎・太田省吾・堀越善太郎
解説 瀬山栄一 A4判／二四八頁／二〇〇〇円
大地を引きすりあげるように跳ぶ。軽々と跳ぶ。演じられる空間を彩る歌舞伎のトンボ。緊張の極みに舞台を蹴って跳びあがる能。執拗に地を跳ねつづける民俗芸能。その瞬間瞬間を中空にとらえて、日本の伝統芸能を「跳ぶ」に凝縮させた写真集。
〔創立25周年記念出版〕

東海大学出版会

〒160東京都新宿区新宿3-27-4東海ビル ☎(03)356-1541

「言論」が危うい

国家秘密法の周辺

神奈川新聞社編

1500円

言論を封殺する―これが戦争への第一歩であった。今、日本はスパイ天国との名の下に、国家秘密法を作ろうとする動きがある。戦前の新聞の歴史を反省し、現在の防衛と秘密の実態を明らかにする。今、話題の一冊。

〒170東京都豊島区南大塚3-10-10
☎03-987-8611(代)

日本評論社

東京大学出版会

藤井貞和

A5判・九〇〇頁／二〇〇〇円

物語文学成立史

「モノガタリ」の語義を記紀・万葉にさかのぼって検証し、一方で深々とした伝承の世界を曳きずった物語文学の成立を描く。言事が未分化のコト、フルコト、カタリ、モノの用例を具体的に踏査して、新たな物語論を切り拓く大著。

古橋信孝

A5判・三〇〇頁／四〇〇〇円

古代和歌の発生

―歌の呪性と様式― 未明の彼方へと謡いだされた神謡、神のことばの装いの中から定型の和歌が確保されていく様を、古代歌謡の「読み」を通して明らかにする。ことばの呪性から歌の叙事へ、さらに入麻呂・赤人・家持論から古今集へ。

◆NHK特集「世界の中の日本」の取材を通して誕生

新日鉄は

NHK特報部 長谷川孝

何をめざすか

四六判 二二〇〇円

●エリートたちの挑戦 合理化、M&A戦略、複合経営への道をたどる新日鉄の姿を、インタビュ―をもとに描いた迫真のドキュメント。

長田雅喜編

A5判／三八〇〇円

家族関係の社会心理学

福村出版

東京・文京・小石川1-3/電話(03)813-3981

113 東京都文京区本郷7 ☎03-811-8814

アメリカの図書館瞥見記

日本図書館協会 小川 俊彦

——アメリカという国——

アメリカで図書館のネットワークがどのように組織され、機能しているか。コンピュータはどんな役割を果たしているのか、といったことを目的に調査したいと、アメリカ大使館の知人に相談したところ、本国にかけあって下さった。あらかじめ、往復旅費、滞在費などは日本図

書館協会が責任を持つ、メンバーは五、六名ということをお願いはしておいたが、受入れ態勢は我々の予想以上のものであった。いずれ正式なレポートを出すので、以下は全く個人的な印象記である。

もともとは、どんなところへ出かけたならネットワークについて知ることができるか、がアメリカ大使館の知人

へ頼った理由であったが、相談している時にこんな受入れシステムがあるから、と紹介して下さったのがUSIA（米国情報局）であった。このシステム、実際には農務省内（なぜ農務省か、という特別な理由はないそうだが）のグラジュエート・スクールが受入れ機関となっていて、毎年世界各国のさまざまな分野から三〇〇〇人が招かれており、正式には一カ月間全費用アメリカで負担ということになっているとのことである。我々の調査はもちろんこちらの意志による飛入りである。

しかし、旅費・滞在費の自己負担、そして日程が二週間と短いことを除けば、他の正式招待者と同じ受入れとなっていたようであった。六名となった我々のメンバーに対し、先方の負担で二名の通訳が全期間、全行程同行し、汽車などの手段を使いにくい移動では車の手配までしてくれてあった。

全日程及びワシントンでのスケジュールはグラジュエート・スクールで調整されていたが、シカゴ、デンバーでの日程などは、そのボランティアグループにより作成され、ホテルに届けられていて、どういう交通手段で何時までにどこに行き、誰に会えと細かな指示がなされて

いた。案内して下さるのはもちろん二人の通訳である。

費用を国が直接負担することは、見せたいものだけ見せてしまうので、原則としてボランティアのシステムに頼っているとのことであった。しかし、国がその気になって動いてくれないかどうかどうすることもできないこともまた確かである。送り出すアメリカ大使館では壮行会を開いて下さった。受入れ先のグラジュエート・スクールのオフィスにはUSIAの担当官も出迎えて下さっていた。我々のプログラムについては、前述のようにきちんと作成され、一冊にまとめられていたし、米国旅行中に万一のことがあつてはと、緊急連絡先の書かれている身分証明書も用意されていた。

十月初旬には一ドル百五十円近かった為替レートも、帰ってくる頃には株の大暴落が始まったこともあって、十円近くも円が急騰していた。こんなきびしい状況の中で、これ程の受入れ態勢を作ってくれるアメリカの懐の深さ、これをどう解釈したら良いのか。こんな時期に飛入りの我々のためにここまでやって良いのか、といったことが正直な気持であった。しかし、こんなことがこの時期にできることがアメリカという国の持つ不思議な魅

力なのかも知れない。ひるがえって、日本だったらどうするのだろうか、と思わざるを得なかった。

——調査のスケジュール——

二週間（十月四日～十八日）の日程の中で、我々は一
二の図書館と六つの図書館システムを見学することがで
きた。こちらの希望は、一つのシステムの人口は日本の
県に相当する七十万から百万人、大都市でなく、小さな
図書館も含まれているところ、が条件であった。

ワシントン郊外では、メリーランド州バルチモア市を
中心とするミルネットのシステムと、バージニア州のフエ
アファックス郡の公共図書館のシステムを、シカゴを中
心とするイリノイ州では、サバーバン・ライブラリー・
システムと、ノースサバーバン・ライブラリー・システ
ム、それにシカゴ市のシステムを見学することができた。
ここでは二つの大学図書館でのコンピュータシステムも
案内してもらっている。デンバーではデンバー市の公共
図書館とカール（CARL = Colorado Alliance of Re-
search Libraries）と呼ぶコロラド州の資料検索組織の
オフィスと、コロラドスプリング市近郊のエルパソ郡の

公共図書館システムの中心館（East Library & Infor-
mation Center）を見学させてもらった。

短期間に数多くの見学をすることはあまり得策でない
と考え、じっくり腰をすえて一つのシステムを研究した
いとも要望してあったが、たいていは一つのシステムを
一日でということになってしまった。しかし、それぞれの
システムあるいは図書館では、我々のためにできるだ
けの資料を整え、関係する職員全部で応待してくれる、
ということが常であり、こんな受入れを二日も三日も続
けたら、館の業務が停滞してしまうだろうと思えるよう
な歓待ぶりであった。個々のメンバーがもらった資料だ
けでもリング箱ほどのダンボール箱からあふれる程になっ
ている。図書館もやはり見てもらう、知ってもらうこと
は喜びであり、外国の人間であろうと彼等（彼女の方が
多かった）のやっている仕事を理解してもらうために全
力をあげる、というのが基本姿勢であることがうかがわ
れた。

——日本の図書館・アメリカの図書館——

日本とアメリカの図書館の違いは何か、と聞かれた時、

かつては行政機関や市民の図書館に対する理解度と答えていた。今でもこの違いの大きさは少しも変わったとは思っていないが、今回の旅で、どうやら図書館員自身の図書館に対する理解や姿勢の違いの方が大きいのでは、と思うようになっていく。

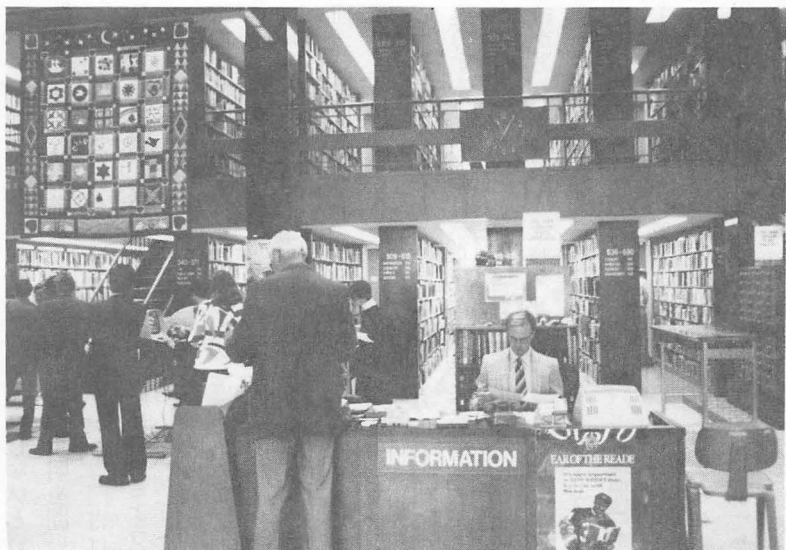
わが国の司書の制度は、基本的には大学において図書館の科目を履修したものか、大学を卒業後に司書講習を修了したもの、となっている。講習なら夏季の二カ月で十九単位取得すれば資格がとれるのだから、制度自体がゆるやかであり、また図書館も文部省の補助金で建物を建てる時以外は、司書（館長）を置くことを義務づけられてもいない。

これに対し、アメリカのライブラリアンは修士である。しかもライブラリアンの資格だけではダメ、と経営学を学んだり、建築学を学んだりしている。事実フェアファックス郡のディレクター（図書館を統括する最高責任者）は経営学を学んでおり、ディレクターにとってはむしろ図書館よりも経営学の方が重要であるとも力説しているくらいである。

しかし、問題とするのは資格のことでなく、ライブラ

リアンの頭のやわらかさというか、姿勢の柔軟さである。日本と同じくアメリカにおいても図書館の利用は基本的には無料である。だが、ビデオテープを置いていたりころはどこも有料であった。料金はマチマチであり、日本のようなレンタルショップがどうなっているのか全く不明だったが、彼等は有料であっても利用者に喜ばれているし、このお金でまた新しいビデオを購入することができるのだから問題はない、と考えているのである。従ってこの理屈を延長すると、ベストセラーになるような本は、誰でもが借りたがる、だからゆっくり待てない人のためには有料の貸本があってもいいのではないか、という考えに到る。我々の見た図書館ではシカゴ郊外のエバンストン公共図書館では入口の一番目立つところに、このコーナーが置かれてあった。

シカゴ市の図書館では各種のデータベースを導入していたが、検索に五分以上かかるものはすべて有料であり、このための専用の窓口をも持っていた。ここでは三〇〇近い外部データベースにアクセスが可能ということであり、企業情報や雑誌記事情報などの利用で空き時間は無いとのことであった。ちなみに料金は最初の五分間は三



エバンストン公共図書館 入口正面にインフォメーション・デスク

ドル、以降一分ごとに二ドルずつ加算ということである。本の選び方にしても、十分に検討された上でのことであろうが、日本的な発想からすると、まさに「信じられない」ようなことが平気で行われている。新しい本の情報をどうやって入手するか、ということをあちこちでたずねてみたが、発売と同時にといった意味あいでは考えていないのではないか、という感じである。テレビや演劇・映画の動きに注意して、情報を先どりしたり、書店が出版社に出す注文量からの分野がいま動いているか判断している、という説明をしてくれた図書館があったが、おおむねはその程度のことらしい。ある館長が言っていた「この図書館の書架に並んだ時が新刊です」というおおらかさが何ともうらやましかった。日本の図書館のように、新刊を追いかけるのか、新刊に追いまわされているのかもわからないような程になぜ急ぐ必要があるのか。我々の質問は彼等に理解できなかったようである。選書の判断はライブラリアンが行っているが、いわゆる楽しみのために公共図書館を利用してもらう、という考え方が徹底しているためだろうが、専門書は大学図書館で購入しているし、必要ならネットワークシステムを

使っていつでも入手できるので、一切選書しないという方針はこの公共図書館でも買っている。説明を聞いて驚いた例では「ここは公共図書館だから専門書は置かない。専門書が必要な人は書店に出かけているようだ」というのがあった。見事な割り切り方である。お金がない訳ではなく、必要な本は同じものを一システムで一五〇〇冊も購入している、といった例もある。整理作業室をあちこちで見えて歩いたが、一五〇〇冊はともかく、何十冊、ひょっとしたら一〇〇冊単位という同じ本の山を何回か目にしている。

ごっそり購入するから、読まれなくなった時はごっそり処分する。我々の目から見たらまだ充分使えるような本が処分される。どこの図書館にも「友の会」のような組織があり、図書館サービスを支えるボランティア活動を行っているが、処分された本はその友の会の人々によって売店などで売られている。ハードカバーは一冊一ドル、ペーパーバック五〇セント、雑誌二〇セントという例があった。この図書館ではないが、別のところで年間の売上げが二、三万ドルに達し、新刊の購入費にあてている、というケースもあった。そして、考え方を更に一步

前進させると、そんなことなら大量に書店から本を借りて利用してもらったらいいい、ということになる。ある図書館では検討中とのことであったから、商売として図書館に本を貸すことが成り立っているようであった。

このような割り切り方は目録作業に関しても見られる。全国的に流通している電算目録(MARC)をシステムで、あるいは単独の図書館で利用しているケースが多かったが、どこかよその図書館などが目録をとってくれるなら、自分のところであえて手間ひまかけて目録を作る必要はない、という考えである。従ってマークにあたって、すでに入力されているれば自館用として取り込み、ない場合は入力されるまで本を事務室の棚に置いておく、という図書館もあった。内容的に多少問題はあっても、そのことで利用者が困らなければそれで良い、という訳である。

利用者を助けるために、入口を入ったところにインフォメーションのデスク、各主題室にはレファレンスのデスクがあり、そこには必ずライブラリアンがいて、いつでも相談することができるから、多少目録が不備でも、ということであるらしい。

マークを探して見当らなければ入力されるまで待つ、といった先の図書館では、目録に関してはライブラリアンが関与していない。全くアシスタントまかせである。

つまり機械的に処理（あるかないかを探し、あればローカルデータを入力する、なければ待つ）するだけであるから専門職でなくても、ということのようであった。

同じような考え方はカウンター業務でも導入されている。本の貸出し、返却などは単純業務であり、パートで充分ということのようであった。パートの人は自分のやっていることの説明はしてくれるが、本のことなどを聞いてもライブラリアンのいるインフォメーションやレファレンスのデスクを教えてくれるようになっていた。

——おわりに——

どこまで割り切ることがいいのか、今の時点では判断はつきかねているし、有料の問題や職員の配置のあり方などについても、すぐそのまま日本に持ち込めることではないことも充分承知している。肯定的にこれらのことを書いてきたことによって、非難をあびることもあるかも知れない、と思いつつ、彼等はこれらのことを他から

いわれたからでなく、自分のつまりライブラリアンの責任として、発想し、実行してきたことを評価したい気持ちだけは捨てることができない。

ネットワークの調査に行つて、そのレポートを書きながら、肝心のことを全く書かずに終ってしまいそうであるが、ネットワークを作るということは、基本的には己を捨てて、そのシステム全体で本のこと、サービスのことなどを考えることにある。つまり小さなことにこだわりの持っていたのでは協力体制を作ることとは不可能であり、どういったシステムを作るかの判断をするのは全体としての図書館員である。コンピュータに限っていえば、日本の方がすぐれた機械（図書館向きの）を作る技術がありながら、できてこないのも、個々の図書館と個々のメーカーが勝手に自分のものが一番すぐれている、と思ひ込んでしまつているところにあるような気がしてならない。

図書館自体が貧弱で、数も不足している。何がネットワークか、といわれそうであるが、図書館、公共だけに限らず、すべての図書館がそれぞれバラバラに機能していたのでは国民の役に立ちにくいことだけは確かである。

社会心理学の分類と研究領域の紹介

齊藤 勇

本稿は、社会心理学の内容を二つの視点から分類し、概説することにより、社会心理学全体の研究領域や諸理論を知っていただこうと思ひ書き下したものです。ここに示した分類法は一つは社会の規模による分類、一つは生活上の社会単位による分類の二つです。

(一) 「社会」の規模による分類

社会心理学は、個人を取り巻く社会とその個人の心理との関係を扱った科学です。個人を取り巻く社会には、一つの文化あるいは国家、民族といった大きな社会から、会社や家族といった小さな社会、さらには友人や恋人といった一人の他者に至るまでのいろいろなレベルの社会があります。

日本語で「社会」といいますと、どうしても文化や政

治、大衆など大きなマス社会が第一に浮かんでくると思います。しかし、社会心理学で扱っている社会には、友人や恋人などごく身近な一人の人間をも社会として扱っています。

これは社会心理学がアメリカにおいて創始され、発展してきたことに由縁します。

日本語の社会という意味は国家や都市を指し、個人と対峙する関係にあります。ところが社会心理学は英語のソーシャル・サイコロジー (Social Psychology) の訳です。英語のソーシャルはラテン語の *Socius* に由来し、その意味はコンパニオンやパートナーです。つまり連れや友人の意味です。ソーシャル・サイコロジーの社会心理学は元来、交友関係や仲間関係の心理学を指しているのです。現在の社会心理学が、人間関係や対人行動にお

ける心理的側面を重要なテーマとしているのは、社会心理学が最近になって小型化・微視化したのではなく、創始当初からこの分野が一つの重要な研究領域だったのです。

いずれにしても、このような社会の各々のレベルにおいて、人はその社会と各様の心理関係をもっているわけです。そこでまず社会心理学を個人の対応する社会単位の規模により、五つに区分し、各々の研究内容を、より詳細に紹介していきたいと思っています。

- A 対人関係の社会心理学
- B 対人間関係の社会心理学
- C 集団内関係の社会心理学
- D 対集団関係の社会心理学
- E 文化の社会心理学

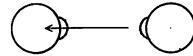
A 対人関係の社会心理学

対人関係の社会心理学とは、人がある一人の他者と相対したときの諸心理的側面を研究領域としています。対人場面の主要な心理的側面として次のような心理過程が研究されています。

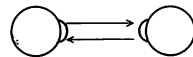
- A-1 対人認知
- A-2 対人情緒
- A-3 対人欲求
- A-4 対人行動

A-1の対人認知とは、他者をどのようにみるか、という領域です。この分野での主要な研究としては初対面

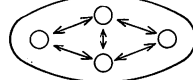
A 対人関係



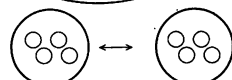
B 対人間関係



C 集団内関係



D 集団間関係



E 文化的関係

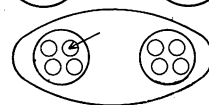


図 社会心理学の社会単位の規模による分類

のときの第一印象の形成過程の研究、人の顔面表情からその人の感情状態を判断する表情分析の研究、行為からの性格の推定、あるいは他者の行動結果たとえば成功や失敗の原因は何であったと考えるかという原因帰属の研究などがあげられます。そして、このような対人認知を説明する主要な理論としてはゲシュタルト理論や社会的認知理論、帰属理論などが展開されています。

A-12の対人情緒とA-13の対人欲求は一般的には情動として一緒に扱われています。多く研究されている情動としては怒りと攻撃的欲求、同情心と援助的欲求、愛情や好意と親和的欲求、向上心や競争心に基づく達成欲求などがあります。これらの感情や欲求が生起する原因を究明するのがこの領域の研究テーマです。

A-14の対人行動はA-13の欲求と連動的に扱われます。欲求が行動を生起するからです。ここでは対人行動の構造やメカニズムと、実際にある行動を促進したり、抑制したりする諸要因とその方策が研究されます。たとえば、どのようにしたら攻撃的行動を抑制できるか、その要因が研究されています。

さて、この分野の研究方法としては実験室で行なわれ

る実験的方法が中心です。それゆえ、この分野は実験社会心理学の主要な領域となっています。その他、質問紙による調査や野外での観察法などが用いられています。

B 対人間関係たいじんかんの社会心理学

対人間関係たいじんかんの社会心理学は友人関係や先輩・後輩関係、恋愛関係など二人の人の関係の心理構造や機能および発現過程などを研究領域としています。

対人場面で相対している二人は、対人行動を相互にやりとりし、二人の関係を展開しています。この二人の間の関係およびその相互作用が、対人関係の研究領域です。現在の社会心理学で主に研究されている具体的な対人間関係として次のような関係があげられます。

B-1 対人間たいじんかんコミュニケーション

B-2 好意的関係

B-3 勢力的関係

B-4 協同・競争関係

B-1は対人場面のやりとりの対人間コミュニケーションです。どのようなコミュニケーションが交換されるかが、二人の間の関係の展開を決めていくわけです。説得

的コミュニケーションなどもこの分野の研究テーマの一つです。また、この対人間コミュニケーションのなかに非言語的コミュニケーションも含まれます。他者への情報伝達手段として、人間は言葉をもっています。しかし、言葉だけでなく、表情や身体動作あるいは、相手への接触や対人距離などにより自分の心理を伝えることがあります。この分野は言葉ではない伝達手段という意味で非言語的コミュニケーションとして研究されています。

B-12の対人感情の主要なテーマは好意と愛情です。なかでも人はどのようなときに人に好意あるいは愛情を感じるのかという対人魅力の生起の諸要因の研究が中心的テーマとなっています。また、対人魅力の生起を説明する理論として、バランス理論、社会的交換理論、情緒・生理仮説、感情の強化説などの諸理論が展開されています。

B-13の勢力的関係は、勢力の源泉と勢力の行使の問題が中心となっています。強力な社会的勢力を持っている人は相手に大きな影響力を与えることができます。社会心理学ではこの勢力関係は主に勢力を認め、影響を受ける方の心理的側面から研究がされています。主な研究

テーマは、社会的勢力の源泉、説得的コミュニケーション、権威者への服従行動などです。

B-14の協同・競争関係は、二人の間の交渉、取り引きの問題もテーマに含んでいます。対人間関係においては二人の間で利害が一致したり、対立したりします。全面的に対立した場合や一部対立し、一部一致するような状況で、どのような交渉や取り引きがなされ、協調が成立するのか、また対立状態が続くのかといった協同・競争の生起の諸要因を研究領域としています。ここでは、実験方法として実験ゲームが用いられ、理論的背景としては主に社会的交換理論や平衡理論が取り挙げられています。

C 集団内関係の心理学

集団内関係の心理学は集団や組織の内の人間関係が研究領域です。

この研究領域はレヴィンが創始したグループ・ダイナミックス（集団力学）によって発展し、また最近では組織心理学の隆盛により活発化しています。この領域の主な具体的テーマは次の通りです。

C-1 集団的生産性

C-2 集団凝集性

C-3 リーダーシップ

C-4 組織内の社会心理的ストレス

C-1は集団のトータルの生産性や業績と成員との関係の研究です。集団や組織にはその集団・組織の目的があります。この目的達成のため成員間は構造化され、地位・役割関係が生まれます。そして、効率的、効果的に目的を達成するための集団行動、集団活動が研究されています。

C-2は集団凝集性です。集団や組織は人の集りです。ただ効率がよければよいというわけではありません。集団がまとまっており、成員がその集団のメンバーであることにより心理的な満足を感じる集団でなければなりません。成員がバラバラで集団に不満をもち、集団をやめてしまつては集団は持続されません。ここでは、集団のまとまりをよくし、集団に誇りを持ち、満足し、一体感を感じるようになる要因は何か、といったテーマが小集団を用いた実験により研究されています。

C-3はリーダーシップです。集団の発展にはリーダー

シップとそれを支える成員のフォローアップがうまくかみ合うことが大事です。集団におけるリーダーシップの生起や効果について、多くの実験および実践的研究が進められています。

C-4は組織の問題です。組織は集団目標達成のため集団活動を行なうにあたり、最も効率的であることが望まれます。ただ、組織は長期的に持続すると、停滞化や硬直化など多くの問題を生じ、また強固な組織ほど非人間的側面が強まり、内にいる人間に多くのストレスを生じさせます。組織活動の効率化と構成メンバーのストレスの問題が現在の組織心理学の課題といえましょう。

D 対集団関係の社会心理学

アメリカは多くの文化の複合国家です。このため、異文化集団間の偏見や対立が多く、またその相互理解や協調が社会の重要な関心事です。このような理由もあり、アメリカで発展した社会心理学では、他集団あるいは他文化の人との関係や集団間の関係、国際関係などの心理的側面が一つの重要な研究領域となっています。これが対集団関係の社会心理学です。

E 文化の社会心理学

文化が異なると人の性格や対人関係、集団内での行動など大いに異なります。俗にいう、カルチャー・ショックは自分とはまったく違う異文化と接触したときに感じるものです。

文化の社会心理学の主な研究領域としては、次の三つがあります。

E-1 社会的性格の社会心理学

E-2 比較文化の社会心理学

E-3 社会化の社会心理学

E-1は生まれ育った文化により、その文化の中で生活している人々は一定の社会的性格をもっている、という仮説の基に、社会と人間を考えていく研究分野です。多くの日本人論はこの領域に入ります。この分野の研究には広範な国民性の調査研究や人の深層心理から社会を分析していく新精神分析学派の研究があります。

E-2は、異なった文化で生活している人間の間の認知体制や欲求体制など諸々の心理過程や性格、対人行動などの相違を比較検討しようというクロス・カルチャラルな研究です。文化が違っていると心理面で何がどう違うのか、

またその原因は何か、を研究している分野です。

E-3の社会化の分野はこのように異なった人間を形成する発達過程の究明です。人は社会的動物といわれていますが、特に成長過程において、親や兄弟、遊び仲間との交流を通して、ある特定の文化を吸収して一つの文化的背景をもった人間に成長していきます。発達期のこの過程を社会化といえます。人の性格を決定づけるこの文化獲得のメカニズムの究明がこの分野の研究テーマです。

以上が「社会」の規模で分類した社会心理学の研究分野と現在、各分野で行なわれている主要な研究テーマの紹介です。

(二) 日常の社会的単位による分類

(一)において、社会心理学の基本的研究領域と主要テーマを紹介してきました。ただ、この分類ですと、社会心理学が現実の社会にどのように適用され、応用されているのか分りにくいと思います。そこで、現実の日常生活の単位を基準にした社会心理学の分類を次に紹介したいと思います。

- A 家庭の社会心理学
- B コミュニティの社会心理学
- C 学校の社会心理学
- D 職場の社会心理学
- E 都市・農村の社会心理学
- F 環境の社会心理学
- G 災害の社会心理学
- H マス・メディアの社会心理学
- I 大衆社会の社会心理学
- J 社会的病理の社会心理学
- K 経済・産業活動の社会心理学
- L 政治行動の社会心理学
- M 国際関係の社会心理学
- N 性別の社会心理学

紙面の関係で各研究分野については詳述できませんが、ここでの項目は、日常生活での社会単位が名称になっていますので、その内容は推定できると思われます。また各分野の主要な著作は文献リストに載せてあります。ただ一言加えておきますと、この各日常社会の心理学的側面を考えるにおいて、前述の社会単位の心理的側面を常

に考慮していくことが重要であるということです。たとえば家庭の社会心理学でいいますと、家庭内の一人たとえば父親なり子供なりは、各々家庭内の他の家族と対人関係や対人間関係をもち、また家庭内という集団内関係や近所の他の家庭との集団間関係をもっており、さらにその家庭はその家庭が含まれている文化の代理的伝達者としての親が子供を育て、また互いにその文化を背景に人間関係をもっているということです。それゆえ(一)の分類と(二)の分類とをクロスして考えて下さい。そうしましたら、社会心理学の基礎と現実の社会への社会心理学の適用の双方がより深く理解されると思います。最後になりますが、最近のアメリカでの社会心理学の重要関心事は社会心理学で得た発見事実や理論の現実社会への適用です。たとえば現実の乱暴行為を抑止するために攻撃行動についての知見を適用することです。また国際間の葛藤に対集団関係の知見を適用することです。このような現実への適用が、今、応用社会心理学として注目されています。

●文献表

(一) 『社会』の規模による分類

(一) 全体の紹介書

- 末永俊郎編『社会心理学研究入門』東京大学出版会
 小川一夫監修『社会心理学用語辞典』北大路書房
 岡部慶三・竹内郁郎・鮑戸弘編『社会心理学』新曜社
 岡本浩一著『社会心理学ショートショート』新曜社
 辻正三著『社会心理学入門』誠信書房
 水原泰介著『社会心理学入門』東京大学出版会
 大橋正夫・長田雅喜編『社会心理学』福村出版
 中村陽吉著『心理学的社会心理学』光生館
 中村陽吉著『対人場面の心理』東京大学出版会
 古畑和孝編『人間関係の社会心理学』サイエンス社
 斎藤勇編『人間関係の心理学』誠信書房
 E・アロンソン著 古畑和孝訳『ザ・ソーシャル・アニマル』サイエンス社

- 大橋正夫・佐々木薫編『社会心理学を学ぶ』有斐閣
 大宮録郎著『はじめて学ぶ社会心理学』大日本図書
 M・E・ショール、P・R・コスタンゾー著 古畑和孝監訳『社会心理学の理論』サイエンス社
 対人行動学研究会編『対人行動の心理学』誠信書房

1-A 対人関係の社会心理学

- 斎藤勇編『対人心理学トピックス100』誠信書房
 斎藤勇著『対人心理の分解図』誠信書房
 エクマン、フリーセン著『表情分析入門』誠信書房
 大橋正夫・長田雅喜編『対人関係の心理学』有斐閣大学双書V『有斐閣
 K・G・シェーバー著 稲松信雄・生熊譲二訳『帰属理論入門』誠信書房
 A・H・ハストーフ、D・J・シュネイダー、J・ポール・F・ハイダー著 高橋雅春訳『対人知覚の心理学』誠信書房
 水原泰介編『個人の社会行動』東京大学出版会
 中村陽吉著『対人関係の心理』大日本図書
 瀬谷正敏著『対人関係の心理』培風館
 F・ハイダー著 大橋正夫訳『対人関係の心理学』誠信

書房

L・フェスティンガー著 末永俊郎監訳『認知的不協和の理論』誠信書房

中村陽吉・高木修編著『他人を助ける行動』の心理学』光生館

C・L・クラインク著 福屋武人監訳『ファースト・インプレッション』有斐閣

斎藤勇編『欲求心理学トピックス100』誠信書房

11B 対人間関係の社会心理学

斎藤勇編『対人社会心理学重要研究集(2)——対人魅力と対人欲求の心理——』誠信書房

K・J・ガーゲン著 清水洵訳『社会交換の心理学』誠信書房

P・ジンバルド、E・B・イブセン著 高木修訳『態度変容と行動の心理学』誠信書房

E・バーシェイド、E・H・ウォルスター著 蜂屋良彦訳『対人的魅力の心理学』誠信書房

杉田峰康著『こじれる人間関係』創元社
水原泰介・辻村明編『コミュニケーションの社会心理学』

東京大学出版会

P・ブル著 高橋超編訳『しぐさの社会心理学』北大路書房

M・アール著 辻正三・中村陽吉訳『対人行動の心理』誠信書房

原岡一馬著『態度変容の社会心理学』金子書房
類藤和寛著『人間関係ゲーム』創元社

H・L・ミラー、P・S・シーゲル著 藤原武弘訳編『ラブ』福村出版

D・K・バーロ著 布留武郎・阿久津喜弘訳『コミュニケーション・プロセス』協同出版

斎藤勇著『人間関係の分解図』誠信書房

11C 集団内関係の社会心理学

斎藤勇編『対人社会心理学重要研究集(1)——社会的勢力と集団組織の心理——』誠信書房

C・A・キースラー、S・B・キースラー著 早川昌範訳『同調行動の心理学』誠信書房

J・H・デービス著 永田良昭訳『集団行動の心理学』誠信書房

D・カートライト、他著 三隅二不二・他訳編『グループ・ダイナミックス』誠信書房
末永俊郎編『集団行動』東京大学出版会
中村陽吉著『集団の心理』大日本図書

1-D 集団間関係の社会心理学

J・M・ジョンス著 野村昭訳『人種関係の心理学』誠信書房

G・W・オルポート著 原谷達夫・野村昭訳『偏見の心理』培風館

1-E 文化的関係の社会心理学

築島謙三著『日本人を考える』大日本図書

中野久夫・河田宏著『日本人の攻撃性』三一書房

荻野恒一・星野命編『カルチュア・ショックと日本人』有斐閣

近藤裕著『カルチュア・ショックの心理』創元社

河合隼雄著『中空構造日本の深層』中央公論社

見田宗介著『価値意識の理論』弘文堂

L・V・ゴードン、菊池章夫著『価値の比較社会心理学』

川島書店

木村駿著『社会心理学選書2 日本人の対人恐怖』勁草書房

(二) 日常の社会的単位による分類

2-A 家庭の社会心理学

河合隼雄・小林登・中根千枝編『親と子の絆』創元社

小此木啓吾著『家族心理学のすすめ』小学館

久世敏雄・長田雅喜編『家族関係の心理』福村出版

加藤隆勝編『現代社会と子ども』朝倉書店

2-B コミュニティの社会心理学

S・A・マレル著 安藤延男監訳『コミュニティ心理学』新曜社

山本和郎編『コミュニティ心理学の実際』新曜社

2-C 学校の社会心理学

P・B・スミス著 岡村二郎編訳『小集団活動と人格変

容』北大路書房

古畑和孝著『よりよい学級をめざして』学芸図書

21D 職場の社会心理学

K・E・ウェイク著 金児曉嗣訳『組織化の心理学』誠

信書房

三隅二不二著『リーダーシップ行動の科学』有斐閣

白樫三四郎著『リーダーシップの心理学』有斐閣

松浦健児・清水江一・岡田和子・伊藤千代子著『職場女

性の人間関係』有斐閣

兼子由監『新・産業心理学入門』(全5巻) 大日本図書

山田雄一編『第1巻 経営の心理学』

清宮栄一著『第2巻 人間中心の労働科学』

木下敏著『第3巻 職場集団の心理』

俵実男著『第4巻 自己開発法』

田崎醇之助・八木孝彦著『第5巻 職場のストレス』

内山喜久雄・小田晋編『職場のメンタル・ヘルス』有斐

閣

21E 都市・農村の社会心理学

21F 環境の社会心理学

インセル著『混みあいの心理学——快適空間を求めて—

—』創元社

H・M・プロシャンスキー、W・H・イッテルソン、L・

G・リブリン編『環境心理学』(全6巻) 誠信書房

穂山貞登訳編『第1巻 概念と研究態度』

今井省吾訳編『第2巻 基本的心理過程と環境』

広田君美訳編『第3巻 環境組織内の人間的要求』

大原健士郎訳編『第4巻 社会的制度と環境的デザイ

ン』

入谷敏男訳編『第5巻 環境計画』

船津孝行訳編『第6巻 環境研究の方法』

C・マーサー著 永田良昭訳『環境心理学序説』新曜社

A・メーラビアン著 岩下豊彦・森川尚子訳『環境心理

学による生活のデザイン』川島書店

ルドルフ・H・モース著 望月衛訳『環境の人間性』朝

倉書店

A・モル、E・ロメル著 渡辺淳訳『空間の心理学』法

政大学出版局

2-G 災害の社会心理学

安倍北夫著『災害心理学序説』サイエンス社

東京大学新聞研究所編『災害と情報』東京大学出版会

東京大学新聞研究所編『災害と人間行動』東京大学出版会

会

広瀬弘忠編『災害への社会科学的アプローチ』新曜社

2-H マス・メディアの社会心理学

吉田正昭・仁科貞文・天野祐吉・志津野知文著『広告の

心理』有斐閣

H・J・アイゼンク著 岩脇三良訳『性・暴力・メデイ

ア』新曜社

H・キャントリル著 斎藤耕二・菊池章夫訳『火星から

の侵入』川島書店

2-I 大衆社会の社会心理学

R・L・ロスノウ、G・A・ファイン著 南博訳『うわ

さの心理学』岩波書店

ヴィルヘルム・ライヒ著 平田武靖訳『ファシズムの大

衆心理(上)・(下)』せりか書房

池内一編『集合現象』東京大学出版会

入谷敏男著『日本人の集団心理』新潮社

川本勝著『社会心理学選書 流行の社会心理』勁草書房

辻村明著『戦後日本の大衆心理』東京大学出版会

浜口恵俊・公文俊平編『日本の集団主義』有斐閣

M・A・デカン著 杉山光信・杉山恵美子訳『流行の社

会心理学』岩波書店

神山進著『被服心理学』光生館

2-J 社会的病理の社会心理学

南博・相場均・他編『現代人の病理』(全5巻)誠信書房

『第1巻 文化の臨床社会心理学』

『第2巻 人間関係の臨床社会心理学』

『第3巻 家族の臨床社会心理学』

『第4巻 エロスの臨床社会心理学』

『第5巻 臨床社会心理学の基礎』

田崎醇之助・吉川栄一著『疎外感』大日本図書

河合隼雄著『母性社会日本の病理』中央公論社

小此木啓吾著『モラトリアム人間の時代』中央公論社

小此木啓吾著『モラトリアム人間の心理構造』中央公論社

R・カイヨワ著 清水幾太郎・霧生和夫訳『遊びと人間』

岩波書店

木村駿著『日本人の深層心理』創元社

南博著『南博社会心理論集』(全3巻) 勁草書房

『第1巻 社会心理学の性格と課題』

『第2巻 日本人の心理と生活』

『第3巻 日本人の芸術と文化』

21K 経済・産業活動の社会心理学

鮑戸弘・田崎篤郎・鈴木裕久・嶋田智光著『経済心理学』

朝倉書店

正田巨著『産業心理学』恒星社厚生閣

吉田正昭著『産業心理学』培風館

21L 政治行動の社会心理学

公平慎策著『転換期の政治意識』慶應通信

西平重喜著『世論反映の方法』誠信書房

21M 国際関係の社会心理学

「文化と人間」の会編 星野命・斎藤耕二・菊池章夫

責任編集『異文化との出会い』川島書店

穂山貞登編著『文化の心理学』朝倉書店

21N 性別の社会心理学

東清和著『性差の社会心理学』大日本図書

東清和・小倉千加子著『性役割の心理』大日本図書

編集担当者が綴る「人文会ニュース」50号の歩み

人文会はこととして二十周年を迎えます。会ではこれを記念して、人文書マニユアルのよう大きな企画を考えており、あわせてこの秋にはかなり大規模な催しを構想しています。そしてこの「人文会ニュース」も、一九七三年の創刊以来、十五年にして本号で50号を数えることになりました。そこで、会の二十周年の前祝いというわけでもありませんが、本誌の50号までの歩みを、本会の会長と、初代編集長をはじめとして前編集長までの六名に、それぞれの立場から執筆してもらいました。会の活動の一端をこれによって御理解いただければ望外の喜びとするものです。

弘報委員会

●会長 中平千三郎（東京大学出版会）

今年は人文会結成二十周年にあたります。たまたまこの年、「人文会ニュース」が五〇号を迎えました。本誌の刊行については、弘報委員会が担当してまいりました

ので、歴代委員長がそれぞれの時代を代表して発言していますので、「人文会ニュース」の歴史というようなものが明らかになっています。もとよりこの「ニュース」

は人文会の機関誌乃至会報ではありませんので、「ニュース」をならべても人文会の歴史にはなりません、しかし人文会が意図してきた人文図書の普及販売のための努力のあとが、本誌にもられた情報と資料にあらわれております。会員各社の新刊案内的な広告面の構成は変わりませんが、本文の内容はそれぞれの時期の当面の課題にとりくんで、生きた情報と資料を提供してきました。それから見れば、人文会の活動の歴史の一端をうかがうこともできます。

創刊号の表紙には刷りこまれていませんが現行の「ニュース」には業務用と明示し、裏表紙には回覧用の欄もあります。つまり、本誌は書店のための、さらにいえば実務者のための情報誌といってよいでしょう。第一の読者は人文図書の棚の、或はコーナーの担当者かも知れませんが、しかしそれはたんにその人だけのものではなく、そのお店の担当者と同僚、さらに責任者、代表者というような人にも見てもらいたいのです。ある情報や資料が役に立つかどうか、或は役に立てられるかどうかは、提供された情報なり資料なりの質と量と、タイミングによるでしょう。それを使いこなすためには、受け手の方の問

題意識と感性ともいふべき資質が必要でしょうし、その立場立場が大きく影響するでしょう。あつめられた情報と資料の活用という意味では、人文会各社の担当者が、もっとも恩恵を受けているのかも知れません。

創刊のころは責任販売制の論議が盛んで、その対策として特約店問題が意識的にとりあげられております。特約店の実施は実現しましたものの、その維持強化に十分であったとは思われません。価値の多様化というばかりではなく、読者と流通の変化のため、人文会の特約条件に適合しない店が多くなりました。「お互いが良かれと思つてやってきたことが今お互いの首をしめようとしている」という指摘（四九号井門論文）にうなずかざるを得ません。流通改善の立場からは、40%をこした返品率がやっと35%以下になったからといっても、それは業界あげての特別な対策が成功したわけではなく、このままでは、取次も、書店も、出版社もやっていけなくなつたから、自律的に送本を規制しただけではないでしょうか。あと10%の減少が対策として望まれています。ここにおいてか、買切制の論議がかまびすしい。前提条件と、例外許容の基準を確立しなければならないでしょう。いず

れにしても、正味体系と再販制度の見直しが必要です。
この様な論議の場を提供するのも「ニュース」の役目か
とも思います。

最近の「ニュース」には図書館関係の論篇が多くなっ
てきました。図書館納本が、特定の書店にかたよりつ
ある現状からみて、読者である担当者の方々に興味があ
るかどうかは別として、人文書の版元に書店だけを対象
とするわけにはいかなかったという、出版社の意向が
反映しているのでしょうか。増刷による読者層の拡充も考
えられています。

この稿のために、創刊号をコピーで復元しました。手

元に見あたらないので、国会図書館と、大宅壮一文庫に
照会しましたが、ありませんでした。業務用冊子とはい
え、その内容とする情報と資料は、まさしく日本出版文
化の一翼をになうものと自負しています。今後は刊行の
都度一部ずつ国会図書館と、大宅文庫に寄贈しておきま
しょう。いざというときにはいつでも間に合います。一
般読者を対象とする出版ダイジェストの「人文会四季報」
はなくなりましたが、この「ニュース」が三分冊に発展
した「人文図書総目録」とともに、書店の皆様にあされ、
その声を取り入れて、中味の濃い情報誌に成長すること
をねがってやみません。

廣松 渉 資本論の哲学

新稿 150 枚増補 哲学者の
眼で『資本論』を読み解く。
増補部分では、ブハーリン
やルービンの物象化論をも
検討する。 3200円 300

彦坂 裕 シティダスト・ コレクション

テクノロジーと空間神話
都市空間を考察すること
により私たち自身の存在を撃
つ。異才建築家の描く詩的
都市考学。 3200円 300

小川和彦 エッセイ実作教室

実際の作品を素材に、テー
マの選び方、エッセイの約
束ごと、プライバシーなど
文章をうまく書くコツを教
えてくれる。 1600円 250

N.ソコロフ 江原由美子他訳 お金と愛情の間

マルクス主義フェミニズム
の展開 市場労働と家事労
働の社会・経済的関係を家
父長制的資本主義論によっ
て解明する。 3800円 300

勁草書房

東京都文京区後楽 2-23-15
☎814-6861(獨)東京5-175253

「人文会ニュース」発刊時をふりかえって

●代表幹事 相田良雄（みすず書房）

昭和四三年十二月に人文会を結成してから読者への弘報活動として、「朝日ジャーナル」の二頁連合広告、「出版ダイジェスト」紙による人文会四季報の読者への配付、書店店頭で配付する「人文図書の新刊案内」など、いろいろと模索してまいりました。しかし書店・取次に対する弘報活動はしておりませんでした。

そこで、書店・取次に対する弘報活動として「人文会ニュース」を刊行したらどうかと私が提案いたしました。それには、こういう経緯があったからです。

小社では昭和四二年以来、毎月書店・取次に新刊月報を配付し、書店の申込による新刊委託配本をしてまいりました。新刊案内だけでは書店の方に読んで頂けないのではないかと考え、小社の営業方針や、業界の動向などを必ず載せるように致しました。小社書籍の一括展示は新刊月報の記事による結果だと信じております。申込配

本も序々に軌道にのり返品削減に多大の寄与をいたしました。

ですから、人文会をながつづきさせるのには、取次、書店に対する弘報活動がぜひ必要だと考えた訳であります。会の内部ではイメージがわかないと反対される方もありましたが、強引に自説を通させて頂き、初代の委員長となりました。

そこで、どんな「人文会ニュース」を作ったらよいか、委員会ではいろいろと論議を致しました。人文会の営業方針といっても、各社まちまちでございますので、将来こういうふうな人文会をもってゆこうというような論文を先ず載せよう。次に人文書の売れ方は新刊刊行時期に限らないので、各社のロングセラー（教科書を除いて年間千部以上売れている書籍）目録を分類して載せれば、棚作りに役立つのではないかと。ついでに注文書もつけよう。

ロングセラー目録は「哲学」「評論・心理」「歴史」「宗教・社会」の四分類とし、四号で完結するように致しました。

次に前年に「人文図書総目録」を発刊したばかりだったので、その補遺として同型式による新刊図書目録を載せよう、というような訳で第1号を四八年六月に作ってみました。配付先は、人文書を良く売ってくださる書店七五〇軒と、人文会セット展示店三五〇軒、それに取次店の仕入・販売担当者と第1号は二〇〇〇部を作成いたしました。

書店の評判はいかにと、各社のメンバーが書店に問合せた結果、データはそれなりに活用できるが、読む記事が少なすぎるという批判が圧倒的に多く集まりました。私にはとてもそういう編集はできないと存じ、後事は次の委員長にお願いして退きました。

ただ四八年というと石油ショックで書籍の定価が急激に上昇した時期でございます。私が書いた出版社の悲鳴みたいな論文を筑摩書房の林部長がある講演で引用し、

同業者の方から「ニュース」の引合があったことを覚えております。

「人文会ニュース」の評判を高めたのは、次の委員長、石橋氏、醍醐氏によるものでございます。有力書店、大学生協との座談会、大学教授の論文など、やはり編集経験者による編集は、私のごとき営業一筋の人間からは考えられないほどの迫力でございました。

人文書講座を始められた神田氏、図書館記事を始められた西谷氏など、すぐれた後継者をえて、ようやく50号をむかえた次第であります。

今後ともいろいろと各位のご意見を賜り、より有意義な「人文会ニュース」にしたいと存じております。またこの「人文会ニュース」にご寄稿賜りました取次・書店の皆様、そして何よりもお読み頂きました書店の皆様にご礼申し上げます。

最後に、これまで人文会をやりたいようにさせて頂いた、会員各社の社長はじめ経営者の皆様に厚く感謝申し上げます。

●石橋雄二（勁草書房）

「時」の流れは早いものである。この「ニュース」は早くも50号を迎えた。

歴代編集長に思い出をという注文で、バックナンバーを繰って見て、懐かしさと共に苦しい思いが甦ってくる。

私が担当したのは、三代目編集長としての13〜16号である。年四回発行だから丁度一年間のお勤めで、一応真面目に勤め上げたということになる。「唐様で書く三代目」にならなくてよかったと思っている。しかし内容はけっして満足いくものではない。

当初、人文会の活動を紹介する情報誌として出発したので、1号から5号までは主に会員各社の図書目録と会の雑報が収められている。6号にいたり、依頼原稿が掲載され始めた。

逐次その跡を辿れば、「本屋の『当惑』について」（柴田良平氏・金栄堂）、「△書店の仕事▽について」（鍋谷嘉瑞氏・芳林堂）、「これからの書籍販売について」（小見山直三氏・紀伊國屋書店本店）。7号「人文会特約店

について」（関根登氏・東販）、「△本▽を売ってみて」（海地信氏・旭屋本店）、「試行としてのブック・フェア」（小用茂夫氏・弘栄堂）。8号「取次会社からみた常備寄託」（下條泰生氏・日販、『新文化』の転載）。10号「書店のたちばからみた常備寄託について」（河野勝一氏・菅井正三氏・釜田信幸氏・長門昭夫氏・高島力氏・海地信氏・能勢仁氏）紀伊國屋書店本店・川又書店・京都駿々堂・ツルヤブックセンター・旭屋書店・多田屋書店の担当者の方々。11号には何故か原稿は依頼されていない。12号「自主スリップによる商品管理について」（岡安喜三郎氏・東大生協書籍部）。それぞれに実務を踏まえた原稿を載いている。ここまでは前任者の担当であるが、今は退会されているので簡単に触れておいた。

1号から5号までは、四季報として順調であったが、6号は九月に出なくてはならないのに、一二月の刊行となっている。これは6号刊行直前の印刷所の火事が原因である。

このことは特に印象深い。会員社打ち揃って昭和五〇年一〇月六日二時二八分のあけぼの二号で東北研修旅行に発つこととなっていたが、いつまで待っても「ニュース」担当の某君が来ない。発車間際に「ニュース」焼失を電話で知った。書店にもってゆく手筈のものだけに旅行幹事であった小生にはショックだったことを鮮明に思い出す。

人文会の総会は例年五月が総会である。このときに役員は交代するが、六月に出される「ニュース」は前任者の担当となる。五一年六月に新たに編集をやらされるものの責任は従って九月刊行の分からということになるのである。

新編集長として、少しでも親しみやすく、書店の経営理念・戦略、販売戦術に迫ろうと、「書店に聞く」という座談会シリーズを企画し13号から発足させた。トップ・バッターには、大書店の代表である紀伊國屋書店本店の田辺雅司氏・小見山直三氏の出席をお願いし、人文書販売についての突っ込んだ話を伺った。14号には、研修旅行の訪問先である松山の丸三書店に地方都市の代表としてご登場願った。井門社長・向井部長・川上緑氏・青野

由里氏とを交え、本の文化性と営利性の調和・社員教育・人文会への注文を聞いた。

15号は、百貨店の書店参入の走りともいべき西武ブックセンターの小川部長・中村文孝氏・山西正夫氏に今後の展開を含めて書籍販売について聞いた。

16号は、電鉄産業からの書店経営の第一号店である都下調布市にある啓文堂書店高田支配人・前島店長・吉原由己雄氏に開業の意図と抱負を聞いている。

当時の弘報委員は小生の他、福村惇一（福村出版）・八木茂（紀伊國屋書店出版部）・安藤豊（現代思潮社）であった。

17号から編集担当は、名編集長醍醐隆氏へと移り、この座談会シリーズは生協、文栄堂書店をもって19号で終了した。

振り返れば、それぞれに現場からの直接の声を聞いてみたことは、大いに役立ったと思うと同時に、一〇年余を経た今日にあって、問題の解決はどのように行われたかと今更ながら問い直してみても、余り変わっていないように思うがどうであろうか。

「紺屋の白袴」からの脱却

● 醍醐隆（日本評論社監査役）

「紺屋の白袴」という諺がある。解説書によると、「専門家は自分のこととなると構ってはおられず、所詮は疎になりがちだ」という意のように書かれ、「医者の不養生」などと同義語に扱われている。しかしそれはそれは皮相な解釈で、私は専門家なればこそへたな色物は身に着けられない、つまりプロとしての自覚が己を律する厳しさのようなものをそこに感じるのである。

「人文会ニュース」は、その意味で謂わば本造り、雑誌造りの専門家集団が、出版物の流通に携わるプロ集団、取次人、書店人をその対象読者として刊行する情報誌である以上、それなりの神経を使って取り組まねば恥をかきかねない。「所詮疎になりがちな紺屋の白袴」ではまづいと考えてきた。

私がこの「人文会ニュース」の編集を担当する羽目になるのは、会創立十周年を目前にした昭和五二年五月の

総会で、会計監事から弘報担当に推された時ということ、16号から23号までの8冊を手掛けるが、16号は前委員会の企画の引き継ぎであったから、実質的には17号以下7誌ということになる。

私の基本的な編集方針は、人文会の日常活動や運営方針を読者たる流通関係者の方々に知って戴き、意志の疎通を図り、相互に関心の深いと思われるテーマ、時事的な問題を選んで特集し、できれば意見交換の場として誌面を活用し、そのことを通して人文書の普及拡販に役立てたいということであった。

多少の経費はかかるにせよ、地方書店を巡回し説明して歩くことを考えれば、会誌の普及はそれ以上の効果はある筈とも考えた。そこで表紙の誌名文字や装釘をも改め、まず手にとって読んでもらうべく配慮したつもりである。

今改めて、それら会誌を見直してみると、「現代の学生と人文書」(17号)の都内大学生協関係者との座談会。「人文書、専門書の効率販売について」(19号)の特集。「読者にとって魅力ある書店とは」(21号)の特集。これを受けての柴田信、小川道明、海地信氏ら書店人サイドからの「魅力ある書店造り」に関する原稿(22号)。更に当時社会問題化しつつあった再販問題についての特集(23号)など、編集面の稚拙さには冷汗三斗の思いを感じるものの、会誌らしい体裁はともあれ整えることができたのではないかと、当時を想い返し懐かしい気分である。殊に読み易さを考え、従来の横組みを縦組みとした21号は、朝日新聞読書欄に写真入りで紹介され、非売品の一業界誌にも拘らず一般からの多くの問い合わせを戴いた

あなたの彼は「サムソン」？ あなたは「デリラ」？

現代における男と女の関係を、旧約聖書の中の主人公サムソンとデリラになぞらえて、社会学、心理学の立場から分析、夫婦間の危機を乗り越えるためのノウ・ハウやアドバイスを提供する。

近藤裕二訳
エバ・マーゴリス
ルイス・ジェネビーニ共著

四六上製 定価二八〇〇円

ことが印象に残っている。これも多くの関係者の方々からの多大なご支援とご協力があつたればこそである、この誌面を借りて遅時きながら、お礼を申し述べたい。取り分け「再販制度の本質と展望」(23号)という業界誌には不相応な優れた論文を執筆願った染野啓子教授には、一段落したらゴルフでもと約束しながら未だそれを実行していないことが、いささか心残りなのである。

今日、若い弘報担当の皆さんが、いろいろと努力をされ、立派な会誌を継続刊行されているのを拝見すると、自分のやってきたことは、皮相な意味での「紺屋の白袴」からの脱却を意図しながら、実はその域を出なかったのではないかと残念ながら反省せざるをえない。

同じことを

みずみずしい感動で
言い続けたい

青地 晨著 鎌田慧解説 定価一八〇〇円

行動するジャーナリストとして、反骨と反権力の姿勢を貫いた青地晨が綴る、自分史と時代を展くためのメッセージ！ ■好評発売中
青地晨の本 魔の時間 教養文庫/三六〇円

社会思想社

東京文京本郷1・振替東京6-71812

● 菊池明郎（筑摩書房）

私が弘報委員長を押しつけられたのは、今から七年前だった。二年ほど編集者の経験があるからというのが理由だったようだ。しかし、その程度の経験など、こういう類の雑誌を作るのに、ほとんど役に立たないということとを、周辺の人達は知らなかったようだ。お蔭で死ぬ程の苦しみを味わったことだけは、鮮明に記憶している。

そんなわけで、私はカンニング的編集をやってその場しのぎをしてしまったのだった。座談会と言うともしっかりしているが、本当は、小林一博先生に全て託したに等しかった。私のしたことと言えば、確か会場手配と、テープを回し、メモを取るくらいではなかったかと思う。そう言えば、学生時代も授業にろくに出ないで、試験やレポートをストレスでパスしていたっけ。そのせいか、今の会社に就職してからも、何度も単位を落した夢を見てうなされたものだった。この性格は何年たっても変わらなず、結局出来るだけの手抜き工事をしてしまうことになったものだった。

座談会のテーマのプランニングは、小林先生がやって下さったのだし、結果として話題になったのは、出席して下さった色々な方々の力によるものだった。一度、朝日新聞が当時の「人文会ニュース」を、書評欄で取り上げてくれたことがあったが、これもその頃、朝日新聞で仕事をされていた小林先生の御尽力があったからのようだ。

編集会議では、私の前の弘報委員長だった安藤豊さん（当時、現代思潮社）に助けられ放しだった。恐らく彼は私の無能ぶりにイライラしながら、こうしろ、ああしろと言ってくれたに違いない。印刷所に出張校正に行くと頑張ってくれたのも、彼であった。

後めたい気持ちがあったので、時々小林先生や安藤氏達を誘って、安酒場で酒をふるまったのを覚えている。今、考えてみると、御馳走の仕方が足りなかったかもしれない。

このような仕事ぶりだったので、歴代弘報委員長とし

ては短命だったのではないかと思う。たしか、二年とたたぬうちに、見事に首になった。

書店、取次の多くの方々と知りあえたのは、役得だったという気がする。想像以上に皆さん勉強しているし、熱心であった。売れない人文書を何とかしたい、版元よ何とかしてくれという気迫にあふれていた。私など、売れない本は自然と見捨てられるものと思っていたので、このことを知った時、とても嬉しかった。

●神田治（春秋社）

「人文会ニュース」の思い出や特徴を語れということですので、思いつくまま書くことにします。

弘報委員会を担当したのが一九八二年五月から二年間で、その前3年間は販売委員会を担当しました。専門書籍の売れ行きが向い風の中での活動でしたが、幸い『会』という集合体に一社ではできない仕事を託することができました。人文会は販売を主とする団体ですので、どの立場からこの販売ということが考慮の中心となってい

以来、人文会を離れられなくなっていました。その後、販売委員長をやるように言われた時も、無責任弘報委員長の罪ほろぼしのつもりで、御奉公をした。しかし、まともや、怠け癖が頭をもたげ、委員会のメンバーには迷惑をかけ通しであった。どうしてもこの性格は一生治らないようである。結局、私は昔の罪状を認め、多くの方々に改めてお詫びをする必要があることを、原稿を書きつつ思い出してしまった。

ました。おのずから先ず書店、取次店が頭に浮かびます。メーカーとしての版元の考え方、姿勢や感覚をどう伝えて、理解を得、その上で良い知恵を加えてもらい会の活動に結びつけるかが課題でした。そんな訳で「人文会ニュース」の製作にこだわったことは、（イ）業務用にすること、（ロ）ニュース性を持たせること、（ハ）版元の感覚をできるだけ伝えること、の三点でした。実質的に五号に携わりましたが、いくつかの企画の中でその趣旨を

実現できたのではないかと考えています。

版元にとつての装幀は最大の関心事の一つですが、三人の書店人から率直に批評をいただいた。——他の分野の商品群に比べ遅れをとっている……装幀に人文書らしい思想性を感じる本に出会うことはまれである。また、「輝け!! 日本装幀大賞」(個人賞、団体賞(版元))の設定もユニークだった——36号参照。

全国に人文書籍を販売の中心に頑張っている書店は多々ありますが、その中から名古屋・ちくさ正文館、仙台・八重洲書房の奮戦記は印象深く、今日でも版元としてのその努力と工夫にはエールを送ります——37号参照。

読者層の変化への対応は書店のみならず編集者にとつては常に持たねばならないテーマです。煥平堂、紀伊國屋、文鳥堂の販売現場と筑摩、岩波、大月の編集現場の方々の座談はとても示唆に富んだものになりました。

——情報取得的に本を見る読み方と、丸ごと本と正対して読む読み方とは決定的に違います。その良否よりも編集者是否応なしに、そういうことについて勉強しなければ……。出版社の型、規模、方向について新しい哲学というか、理念が要求されているように感じています

——38号参照。

版元における企画決定の過程、部数・定価等の政策決定の世界をかい間見た、林邦夫氏(毎日新聞編集委員・当時)の論文は、あまり見聞できない世界を知る上で大いに読者の参考になったと思われる——39号参照。

マーケットとしての大学生協とその読者も大きなテーマでした。再販制度についての話題がはなやかな時に、金高堂・吉村氏の齒に衣を着せぬ——生協書籍部はいつからこんな本のバーゲンセルの舞台になったのか、キャンパスから知的読書の発信がなされる、その発信地としての役割を担え——という発言は今でも耳にのこります——40号参照。

最後に話題となるのは36号からスタートした人文書講座です。これは当時、委員会のメンバーの紀伊國屋書店出版部・野口氏(現新潟店課長)から、「ニュース」に書店の棚担当者により具体的に役に立ち、勉強にもなることを考えようという提案から発想されたものです。現在の棚と、もう少し先を読んだ棚を造るために何ができるか、どんなテーマがこれから話題になりそうか、関連書籍をなるべく多数知らせることを考えました。

記号論——神秘学——文化人類学と続きトランスパーソナル——認知科学へと継続され現在も書店の方々に提供されています。人文会の創立二〇年の記念事業として出される人文図書のマニュアルの核にもなります。書店現場でお役に立てるものと定着すれば素晴らしいことです。

●原田敦雄（大月書店）

責任ある担当を決める会議の席では、なんとか逃げよう、と私は考えるクセがある。一方で長い出口の見えない会議ほど苦手なものもない。神田委員長から後任にとの話があったときも以上のような気分に変化はなかった。しかしそれまでの一年半、会活動新人の私に対し一個人格として対応してくれた神田さんに対し逃げまわるのは失礼だし義理も立たない、などとの思いもあって、ハイということでは私の担当時代が始まったのです。

編集経験はもとよりなく、頼みにするのは潜在能力のみといった船長の二年間の航海は悪戦苦闘の連続でしたが、藤森さん、和田さん、伊藤さんといった先輩の経験

「ニュース」を製作し、会活動について考える時、接着度の弱い版元の組織体の良い潤滑油になり、知恵の集合体としての役割りを果たさなければならぬ上での良い道具にすることが何よりも重大だと反省させられる。

や、可児さん、山根さんの励ましによってなんとか五号を刊行することができました。

一九八四年四月一日に、会員社からの売れ筋情報を用一回定期的に提供する目的で「ワンポイント情報」が誕生しました。五月に発足した新委員会は新しい「ニュース」の性格をどうするか改めて議論することから始まったように思います。その結果として「ニュース」の基本的性格を、書店の方々の魅力ある棚づくりに実際に役立つ情報をその柱に据え直すことで一致し、「ワンポイント情報」は手にとって見ていただける様に工夫を重ねよう、ということに落ち着いたわけです。

40号から九ボ二段組となった「ニュース」は若い方々にも読みやすいと好評だったので当然これを継承するとともに、人文書講座の継続と読者からみた書店の棚についての意見も提供したら、ということを書き手でもありハイレベルの読者として知られる長田弘氏の原稿が41号、42号にわたって掲載されることになりました。人文書講座はトランスパーソナル（42号）、戦後思想の見取図（43号）、アナル派（44号）、認知科学（45号）を会員社編集部の協力をえてまとめられましたが、巻末の文献目録は各地の書店さんでのテーマ別フェアでよく利用されたようです。

読者からの書店棚への意見（長田弘氏）を受けた形で東京旭屋書店（片岡隆氏・藤原潤也氏「新しい人文書販売の方向をさぐる」——43号）と横浜有隣堂（篠崎孝子

氏・北沢誠氏「新しい時代の本屋づくり」——45号）をそれぞれ執筆していただき、書店サイドからの情報として掲載しました。

八二年一〇月の記号論に始まった人文書講座は近々魅力ある棚づくりのガイドブックとして一冊にまとめられようとしています。

二年間の私の経験は会活動や「ニュース」全体の底上げなどにはほど遠いものでしたが、書店さんが本当に役立つ情報とはどんなものか、またそれはどうすればキャッチできるのかなどについて大いに考えさせられた期間でした。私の時代にページまでやせ細ったかに見えた「ニュース」は今、西谷編集長のもとで大いに快復に向っています。今後とも引きつづきご愛読いただきますよう、歴代編集長を勝手に代表してお願い申し上げます。

一九八七年・人文会各社の各種受賞図書一覧（アイウエオ順）

- ・ 泉鏡花文学賞
- ・ 朝稲日出夫著『シュージの放浪』（筑摩書房）
- ・ 大阪芸術賞
- ・ 杉山平一著『映像の論理・詩の論理』（創元社）
- ・ 芸術選奨新人賞
- ・ 田中優子著『江戸の想像力』（筑摩書房）
- ・ サントリー学芸賞
- ・ 長島伸一『世紀末までの大英帝国』（法政大学出版局）
- ・ 延広真治『落語はいかにして形成されたか』（平凡社）
- ・ 梶田茂樹『深層の社会主義』（筑摩書房）
- ・ 山内昌之『スルタンガリエフの夢』（東京大学出版会）
- ・ 洪沢・クローデル賞
- ・ M・パンゲ著／竹内信夫訳『自死の日本史』（筑摩書房）
- ・ 女性史・青山なを賞
- ・ 近世女性史研究会編『論集 近世女性史』（吉川弘文館）
- ・ 造本装幀コンクール読書推進運動協議会賞
- ・ 渋谷龍彦『フローラ逍遙』（装幀・中島かほる、平凡社）
- ・ 特別翻訳功労賞
- ・ 君島久子著『ケサル大王物語』（筑摩書房）
- ・ 日刊工業新聞「技術・科学図書文化賞優秀賞」
- ・ 海溝Ⅱ研究グループ編『写真集・日本周辺の海溝』（東京大学出版会）
- ・ 日経・経済図書文化賞
- ・ 天野雅敏著『河波藍経済史研究』（吉川弘文館）
- ・ 日本文芸大賞エッセイ賞
- ・ 小牧璋子著『私の蜃気楼よ、消えることなく』（筑摩書房）
- ・ 日本翻訳出版文化賞
- ・ 安輝濬著／藤本幸夫・吉田宏志訳『韓国絵画史』（吉川弘文館）
- ・ 毎日出版文化賞
- ・ 毛利子来著『ひとつひとつのお産と育児の本』（平凡社）
- ・ 山川菊栄賞
- ・ イ・ヒョデ著／李順愛・崔映淑・金静伊訳『分断時代の韓国女性運動』（御茶の水書房）
- ・ 山崎賞
- ・ 柳父章『翻訳語の論理』他（法政大学出版局）

四国研修旅行報告

弘報委員 原田敦雄（大月書店）

●人文会の書店研修旅行は会員社全員参加、かつ東販、日販の取次店様のご同行をいたいて毎年一回秋に実施される。

この研修旅行は「旅行」部分四〇％程度で圧倒的に研修であり分きざみの強行軍の連続なのであります。

この研修に出発する事前の準備も質量ともに迫力満点のもので、参加者には中年男子として恥ずかしくないレベルの知力および体力の充実と、決してリタイアしない気力が不可欠の要件となっている。

●一九八七年一〇月一四日から一七日までの四国研修は東販の館野書籍販売部長代理と日販の平野書籍仕入部長にご同行を願っての総勢二四名。行程は徳島市→高松市→高知

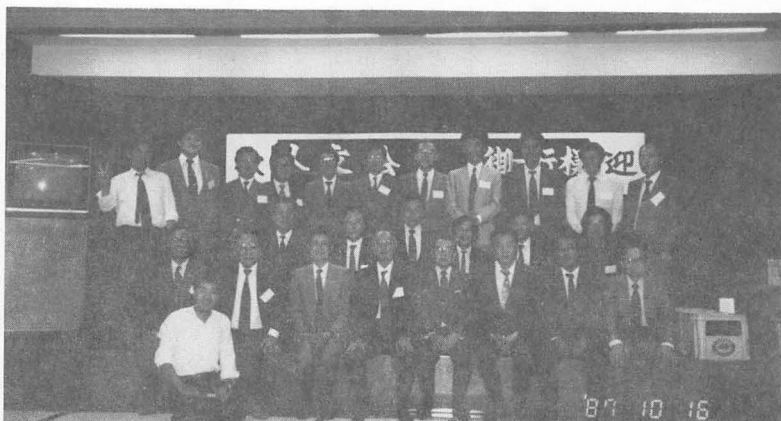
市→松山市の三泊四日である。

羽田の集合時間に遅れること三〇分、アタフタかけつけた最後の一人を押しこんで飛行機は飛び立った。ベルト着用ランプが消える。普通の旅行ならここで配られるのは弁当と缶ビールと相場は決まっているが我々の手もとに届いたのはコピーだ、それが八ポ二段組一六ページのセットもの。追加資料だから着陸までに読むようにとのこと。エエーッとか、そんな：などと無駄な声をあげるのは大体二つのグループに分類できる。一つは言えば通ると思っている経験の浅い者、いま一つは通りっこないけどひと言はいつておこうという無駄承認派。ほとんどはハイ、といいつて寝るか富士山をみながら御巣鷹山の話をしてい

る。

四国——まもなく島でなくなるこの島には四二二万の人が住んでいる。淡路島をはさんで関西を向いたり、瀬戸内海のむこうに中国九州をにらんでいる県もあれば太平洋を両手で抱きこもうとするような骨っぽい国もある。これら四県の本四架橋と高速道路網で完成する架橋新時代にかける期待は想像以上のものである。

●徳島——羽田から直行した徳島は人口八三万中二四万人が徳島市に住む。私たちは小山助学館本店、森住丸善、小山助学館東口店の順に各店店長さん及び担当の方々のご案内で充分に見学のうち、三店合同の研修会は二時間以上におよんだ。席上、森住丸善小林部長



はじめ、書店さんからは徳島市における人文・社会科学系図書不振の要因に県内の大学の理工系中心で人文系学部が皆無だったこと、しかし初の人文系学部として誕生した徳島大学総合科学部への期待は高く学部図書館も充実のきざしがあるとの情報もいただいた。

また現在県民一人当たり〇・八冊という公立図書館の拡充など新時代への地元書店さんの熱い期待にふれることができた。

△徳島駅は小走りだ。何人か足りないヨ、もう知らねえヨ子供じゃないんだから、などと汗をふきふき席をとる、もう阿波一四号は動いている。子どもじゃない証拠に後方車輛から足りなかった頭かずだけ入ってくる。こどもビールは出ない。

高松駅は連絡船の駅だからその分青森駅にどこか似ている。改札口には東販四国支店の鈴木支店長はじめ忙しい方々が出迎えて下さり、まずは東販四国支店にお邪魔した。▽
●高松——香川県は四国で一番人口密度が高い。特に高松は全国で十指に入るといいう。ここに香川一〇二万人の三〇%が暮らしているが文化財商圏人口はもっと大きい。一人当り

所得も一六八万と頭ひとつ出ている。架橋新時代の玄関口の特約店宮脇書店さんの構想の雄大さにはみんな圧倒されてしまったほどだ。一行は東販四国支店の造田さんの道案内で香川大学生協、宮脇書店本店、同卸センターを見学、夜、宮脇社長はじめ専務さん、常務さんを囲んで大いに励まされるお話を伺った。

山下店長は中世史関係の動きがよく歴史、宗教関係の充実をはかりたいとのこと意向だった。

△高松を出た特急南風は、多度津で予讃本線と別れ善通寺をすぎると山峡をゆく。途中、わがGアーツの水野が高校生らしいワルサをした阿波池田あたりで急に西武が心配になったり清原ファンになった小百合さんが頭を悩ます。大歩危小歩危は漢字でかくべし、などといった美しい谷間の流れを見て二曲りした頃から行く手のうす黒い雲はますます黒くラジオの天気予報を聞く。台風が来ているというのだ。しかも高知をめがけてノノロノ、しかし確実にそっちへ向っていますなどとラジオはいう。

はい話、台風ふところめがけてこの汽車は走っている。我々のはんきに乘っている。

高知から松山まではJRと名前が変り駅員さんが挨拶をしてくれる時代になった今も、汽車は走らない。だから高知の一日と松山までの行程はバスになる。美しいといえば言いすぎだし、かわいいいいといった言葉は知らないのかといわれそうな容姿のガイドさんがついでくれた。▽

●高知——高知県は徳島とほぼ同じ人口だが高知市に四〇%近い三十一万人が集中している。所得は東京の半分の一四八万だがなんといつてもどんとこい太平洋、といったように海に両手を広げた県だからやるのがやはり違ふようだ。公立図書館の蔵書は一人当り一・四冊と群を抜いている。この高知に金文三家の金高堂さんが頑張っている。

吉村社長は金高堂の歴史から現在にいたるまでを紹介したあと今日の業界問題を三者三様の問題点に整理し鋭く指摘された。

取次店さんにはビデオ主体の郊外店問題および新規参入の書店に対する取引条件などが提起され、版元へは常備政策の不備的確な

情報のあり方や版元営業マンの軟弱さが詰め将棋のごとく展開され、耳の痛い話が多かった。

書店について吉村社長は、売上分析の困難さはあるもののやはり仕入権を放棄せず地域住民の要求にもとづいた店づくりと安易な方法に頼らない、配達サービスの重要性、顧客から販路を見出すなど書店のあり方の原点とも思われる事柄が具体例をひきつつ説得力のある見解を示された。

なお人文会の特約店制度についてその義務とメリットを打出すべき時が来ているとのご提案もいただいた。(これについては会としては目下専門委員会にて試案検討中である)

高知大学生協には稲葉店長と県立大学の大久保さんも合流し両店舗の現状と自由民権の催物企画への出品要請があった。両店とも人文社会科学系のイマイチ状況のなかで話題性のある棚づくりに必死になって努力している姿が印象的だった。

△高知から松山へ出るバスは石鎚山系を越えて四時間の道が普通だが旅行幹事の計らいで海岸をゆくことになっていた。公表するに

は適切な形容詞の見つからないガイドさんが「ここからは〇〇が見えるはずだけど」とか、いつもならああだの、こうだのと熱心に説明してくれるがほとんど外を見る者はいない。外は暴風雨に近い。

室戸台風ときはこの辺一帯の家がみんな流されよった、などといっている。そんなところノロノロ走るな、と腹の中でいいつつ私は金高堂で買った『江川つてやつは』を読了した。せめてもの「旅行」として水族館に立寄る。傘があったって何の役にもたたないからエーイッとはかり飛びおりて五〇mぐらい先の水族館にかけ込んだ、後につづいた日販平野部長は突風にあおられたかに路面にたたきつけられた。平野さんを飛ばす位だからバス一台ぐらいを石鎚山系の谷底につきおとす位の底力はあるもっている台風がようやく頭の上を通りすぎる。▽

●松山——愛媛県(一五三万人)は四国一の人口をはこり松山市は四二万だが図書館蔵書は四国で一番低い。特約店は丸三書店、明屋書店、紀伊國屋書店と、愛媛大生協の四店舗があり日販四国支店はここに根をはっている。



日販四国支店の松本支店長がスポーツマンらしい明快な口調で四国の概況を説明、各書店担当の方からも詳しい報告をいただいた。

丸三書店との研修はS A化問題で大車輪の活躍をしておられる井門社長が専門的な話もまじえながら書店界の未来像について日頃の見解を展開された。井門社長は「人文会ニュース」49号に「書店がなくなる？」と題して執筆いただいています、その結びでも書店の体質改善を強調されています。ご参照下さい。さらに高須賀店長、川上さん青野さんといった丸三書店のエースが登場し各版元一社ずつビジネスと現場の思いを提起してくれました。紀伊國屋書店さんとの研修には渡部店長と徳水さんに出席いただき近くのレストランを急造の会場として二時間はどあてた。

渡部店長が広島店、岡山店との比較や数年の人文書の傾向を数字をあけて説明されたのち徳水さんを中心に売れ筋情報や入荷部数などかなりつつこんだ問題に議論がわいた。

明屋書店に入ってびっくりした。我々一行の名前が例の「明屋さん文字」できれいに書かれ専門書平台の上に、新刊本のように並ん

で下げてあったのだ。旅も終りに近く「ようがんばったの」といつてくれているようだった。

明屋書店では安藤社長自ら明屋商法というかその接客法の極意を披露して下さり山本店長、沖田店長からは人文書テコ入れの作戦として具体的な提起もいただいた。

松山の大学は背中合せに建っている。愛媛大生協には松山商科大生協もかけつけ合計三〇名位にふくれあがった。二つの大学の店舗の見学を最後に私たちの四国研修は終った。

一〇月一七日(土) 一六時四五分松山発の全日空便が去った後、四国にはきれいな青空が戻ったようだ。

(写真はともに四国研修旅行中のもの。39頁上段は松山・丸三書店との研修風景)

書店閉店ラッシュ

二年間に五軒がやめた駅前商店街

村上 信明

書店の出店ラッシュが依然続いている。既存有力書店の多店舗展開、異業種の相次ぐ書店への参入と多店化、そしてまた既存有力書店のフランチャイズチェーン方式による多店化、それに書店員の独立開業、他産業からの脱サラ開業がある。このところ年間出店数は郊外型書店を中心に一〇〇〇軒前後に達する。

雑誌・書籍の売上げ伸び率が低迷が続けるなかでの出店ラッシュだから、当然食い合いになり、店をたたむ書店も出てくる。閉店数がどれだけかは、大手・中堅取次と書店フランチャイズチェーン本部が帳合変更を除いた数を公表しないため正確には掴めないが、この数年間で年平均七〇〇〜八〇〇軒と推定される。閉店数は年を追って増える傾向にあり、最近では郊外型書店など六〇〜七〇坪クラスの書店一軒ができる、二〇坪以下の小零細書店一軒がやめるといふ相対関係が現われてい

る。出店ラッシュは同時に閉店ラッシュでもあるのだ。

異業種参入を焦点とした出店ラッシュの構造については「新文化」紙上で「参入、今なぜ書店か」に連載中なので省略し、ここでは閉店ラッシュの一例を報告する。

賑やかな商店街に立地していても書店業を持続するのは至難の業だ、という事例に東京・北区のJR十条駅前商店街をあげたい。十条駅は池袋駅より二つ目、赤羽駅の一つ手前。乗降客は一日平均八万五〇〇〇人。医大一校、女子大一校、短大二校、高校三校、小・中学校八校が商圏に入る。駅周辺に銀行、飲食店が並び、約四〇〇メートルのアーケード街が広がる。午後三時過ぎには女子大生や高校生が目立ち、夕方は主婦を中心とした買物客があふれ、夜は帰宅途中のサラリーマンやOLで賑わう。

この駅前とアーケードのなかに一九七八年当時五軒の書店があった。駅を左に折れて伊藤書店、右側の飲食店通りに佐藤雄峰堂、アーケード街を入って昭和堂書店、アーケード街の中間に相聞堂書店、その先に第一書店。いずれも一〇〜一五坪の小規模生業店で、地域一番店の昭和堂も一、二階で計一五坪だった。ここに異変が起きたのは七九年秋。昭和堂よりも駅寄りのアーケード内に都内有力書店の山下書店が支店五〇坪を出店。これに対抗して昭和堂が駅のすぐそばに六五坪を出店したのだ。昭和堂駅前店は廃業したケーキ屋の跡を借りたもので、一階二五坪、二階十五坪、三階二五坪という変形三階建てだった。両書店の出店により駅前商店街の書店数は七軒となり、総売場面積は三倍に増えた。地域一番店を競う新店舗二軒が、同地では珍しく人文書の棚を設けていたことも付け加えておく。

十条駅前商店街の書店閉店は翌八〇年から始まった。最初にやめた書店は伊藤書店。同店は持ち帰り弁当店に転業した。次に第一書店が廃業し、店舗は薬店に譲った。続いて相聞堂が廃業、店舗はすし店が継いだ。さらに

八一年秋、山下書店がテナント契約を更新せず撤退。それを見送ったあと昭和堂がアーケード街の店を文具・ギフトショップに切り換えた。これで四〇〇メートルのアーケード街に書店はなくなった。残ったのは昭和堂駅前店と佐藤雄峰堂の二軒のみとなった。二年間で駅前商店街から五軒の書店が消えたのである。そして八七年春、昭和堂駅前店が三階を閉鎖、売場面積を四〇坪に縮小した。十条駅前商店街の書店の総売場面積は、最盛期の約一七〇坪から五〇坪へと三分の一以下に減った。人文書部門の棚がきれいになくなったことはいうまでもない。

十条駅の乗降客は八〇年当時よりも一万人増えている。新宿―池袋―赤羽―大宮の間を乗り換えなしで直行する埼京線が二年前に開通したからだ。アーケード街は相変わらず賑わいを見せる。書店の転売店および廃業・撤退したあとに入った異業種店はいずれも繁昌している。それなのになぜ書店が五軒もやめてしまったのか。地域一番店として勝ち残った昭和堂駅前店がなぜ売場面積を縮小したのか。

か。その理由をあけてみよう。

①この駅前商店街には、その賑わいほど書籍を買う客がいなかった。とくに学生・生徒の読書力の低下、ビジュアル志向は進出書店と対抗出店書店の予想以上であった。

②読書家を認める通勤客は電車で一〇分ほどの池袋駅で下車、リプロ・西武ブックセンター（五七〇坪）、芳林堂書店（三五〇坪）、東京旭屋書店池袋店（三〇〇坪）、三省堂書店池袋バルコ店（一八〇坪）、新栄堂書店（二二〇坪）らの大型書店を利用した。近距離の大型書店に小零細書店が対抗する有効な術は、口でいうほどには見つかからない。

③右の①と②の事情から見ても、この駅前商店街に七軒の書店が共存できるはずはなかった。明らかにオーバーストアである。進出書店、対抗出店書店、その狭間に立つ書店は、いずれも長時間営業、年中無休という死闘を演じ、店主夫妻と店長は疲労困憊した。

④勝ち残った昭和堂駅前店の売場面積縮小は、人件費、維持費の節減と、店主と店長の労務管理の負担を軽減するためだ。同店が三フロアに要した人員は、当初、社員名、パー

ト・アルバイト延べ一六、七名。二フロアに縮小して社員は店長一名に、パート・アルバイトも半減した。社員一名は自ら辞めてほかの業種に転職した。生業店に社員は居つかない。また生業店は社員を長く抱えることが負担になる。社員を多く抱えると、人件費を分散させるために出店を考えなくてはならない。書店員として生計を立てるとすれば、会社組織の体裁を整えた書店、つまり事業展開の有力書店しかないといえるだろう。

このほか地価高騰と後継者不在も閉店理由にあげられるが、それは右の四つの理由に収まる。地価高騰は家賃上昇に見合った売上げがあったなら閉店はしなかった、生業店の将来に展望が見出せるなら店主の子女は店を見捨てなかった、といえること足りる。

こうした相次ぐ閉店事例は、いま全国各地に散見できる。出店ラッシュは必ず閉店ラッシュをとめない、生業店の大部分は立往生の末に店をたたんで行く。残るのは質量を備えた書店、それが既存有力書店とは限らない、という書店地図の塗り替えは急ピッチで進んでいる。

（「新文化」記者）

人文会会員名簿

(〒113-91 東京都文京区本郷局私書函89号)

1988. 1. 現在

	社 名	担当者	〒	所 在 地	電 話	FAX
	青 木 書 店	古川 清	101	千代田区神田神保町1-60	292-0481	292-0475
	大 月 書 店	原田 敦雄	113	文京区本郷2-11-9	813-4651	813-4656
	御茶の水書房	橋本 盛作	102	千代田区九段北1-8-2	230-2510	265-7767
	紀伊國屋書店	佐久間健雄	156	世田谷区桜丘5-38-1	439-0125	439-1094
	勁 草 書 房	石橋 雄二	112	文京区後楽2-23-15	815-5277	814-6854
	社会思想社	渡辺 和彦	113	文京区本郷1-25-21	813-8105	813-9061
	春 秋 社	澤畑 吉和	101	千代田区外神田2-18-6	255-9611	253-1384
幹 事	晶 文 社	萬洲 隆男	101	千代田区外神田2-1-12	255-4501	255-4506
幹 事	誠 信 書 房	濱地 正憲	112	文京区大塚3-20-6	946-5666	945-8880
幹 事	創 元 社	重光 義彦	162	新宿区山吹町77	269-1051	269-1092
	筑 摩 書 房	菊池 明郎	101	千代田区神田小川町2-8	291-7651	295-0220
	東海大学出版会	岡田栄三郎	160	新宿区新宿3-27-4		
				新宿東海ビル	356-1541	341-1833
会 長	東京大学出版会	中平千三郎	113	文京区本郷7-3-1	812-2111	内7955
幹 事	“	竹内 康一	“	“	811-8814	812-6958
幹 事	日 本 評 論 社	後藤 光行	170	豊島区南大塚3-10-10	987-8621	987-8590
	福 村 出 版	福村 惇一	112	文京区小石川1-3-17	813-3981	818-2786
	平 凡 社	須田 康昭	102	千代田区三番町5Kビル	265-4492	263-9333
	法政大学出版局	市川 昭夫	102	千代田区富士見2-17-1		
				法政大学構内	237-1731	237-8899
代表幹事	み す ず 書 房	相田 良雄	113	文京区本郷5-32-21	814-0131	818-6435
幹 事	未 来 社	西谷 能英	112	文京区小石川3-7-2	814-5521	814-8600
	雄 山 閣 出 版	武 一雄	162	新宿区白銀町20	266-8481	266-8444
	有 斐 閣	佐藤 進	101	千代田区神田神保町2-17	265-6811	262-8035
	吉 川 弘 文 館	川越 重行	113	文京区本郷7-2-8	813-9151	812-3544

販売企画委員会 ◎竹内 ○古川 福村 須田 佐藤 川越

弘 報 委 員 会 ◎西谷 ○原田 橋本 渡辺 澤畑

調査・研修委員会 ◎萬洲 ○市川 石橋 岡田 武

20周年記念委員会 ◎濱地 ○佐久間 ○菊池

◎印は委員長 ○印は副委員長

クイメーシリーディング叢書

マエリスム都市 シュトラッブルクの天文時計

三宅理一 近代初期の転形期に、エルザス地方の一都市が経験した社会的・精神的変革を市民の眼で描く。 ●定価2,200円

ジルジュサンドはなぜ男装をしたか

池田孝江 ショパンやミュッセとの華やかな交遊、芸術家たちとの交友関係に焦点をあてて生涯を綴る。 ●定価2,300円

分りテリオン叢書

ルネサンスのオカルト学

W・シュレーマイカー／訳 田口清一 占星術・妖術―膨大な原典を博覧しつづ描くルネサンス思想史研究 ●定価4,800円

マチユ・ピチュの高み

ネル・ダ インカ遺跡の崩壊をうらうテリ最大の詩人の傑作。詩と絵と音声と。内容見本。矢内原訳 竹久野生画 次600円

人間知性新論

ライプニッツ ロック『人間知性論』への批判的対話。パロック哲学の極致が現代に甦る。初の完訳。米山露訳 次600円

印刷革命

アイゼンシュテイン 宗教改革、科学革命を生んだコミュニケーション革命の全容を描く。図版62 別宮貞徳監訳 図000円

法、法哲学とナチズム

ロットロイトナー編 ヒトラー政権を支えた法理論と法体系はいかなるものであったか。ナチス法理論研究全訳 図000円

東京本郷文京
3丁目17-15

みすず書房

平凡社

〒102 東京都千代田区三番町5
振替・東京8-28639
TEL 03-265-0455

法政大学出版局

フランス革命論

＜革命の合法性をめぐる哲学的考察＞
フイヒテ／樹田啓三郎訳 自由意志に基づいて革命は合法的であるとして、その革命権を行使した真色の論議。3500円

正常と病理

カギレム／瀧沢武久訳 医学の基礎を徹し、正常と病理の間の問題を機械的な立場から直す。2800円

現代インド経済研究

＜金融革命と経済自由化をめぐる諸問題＞
給所秀紀／膨大な人口と低生産性農業に苦悩するインド経済。その特殊性を分析する。4800円

パラジット 寄食者の論理

M・セール 寓話のなかにちりばめられたパラジット＝寄食者というモイ・ワードを学際的・操作的に現代世界を解説する。及川毅・米山親能訳 3900円

東京都千代田区富士見2／電03-237-1731

西谷能雄著

四六判 二四四頁 ●定価 9800円

責任販売制とは何か

版元・取次店・書店にとって過剰返品防止がたい重荷となりつつある。返品問題は出版の必要悪なのか。業界の責任販売制・買切制についての論議が高まっている。責任販売制をめぐる諸問題を徹底に分析し出版界の多るべき姿を提示する。

◆この著の業出版の原稿を贈う 西谷能雄の著作へ入門◆

出版のこころ 1800 出版流通機構試験 1600

出版を考える 1300 預金者の論理と心理 1500

出版界の虚像と実像 1400

未来社

東京都文京区小石川3-7
電話(814)5521振東7-87385

大河ドラマコーナーに必備

武田信玄

〈人物叢書〉
奥野高広著
1600円

戦国乱世を怒濤の如く駆けた信玄の全生涯を、第一線の歴史家が史実を克明にたどり描く本格的実伝。

歴史探訪 武田信玄

現地取材による写真・記事を豊富に盛り込み、信玄の人間像と時代をわかりやすく解説。
1800円

吉川弘文館

東京都文京区本郷7-2/☎03-813-9151

●近世日本言語学の精髓●

江戸の言語学者たち

杉本つとむ著

●A 5 12000円●

●全巻完結ノ●

国家概念の歴史的変遷 全3巻

芳賀 登著

- | | |
|-------------|-------|
| ① 国家概念と古代国家 | 3800円 |
| ② 中世国家と近世国家 | 4800円 |
| ③ 明治国家の形成 | 5800円 |

●各A 5●

雄山閣

千代田区富士見2/振替東京3-1685

東 史郎著

わが南京プラトーン

〈46判〉 定価一六〇〇円
一召集兵の体験
した南京大虐殺

私は見た、わが小隊の壮絶・残酷な戦場の全過程を……激戦場で綴られ、50年のあいだ門外不出の手記を一気に公刊

下里正樹著

隠された聯隊史

〈46判〉 定価一三〇〇円
「20」下級兵士の
見た南京事件の実相

南京城外の闇に忽然と現れた七千人の捕虜……彼らを持ち上げていたものは？ 多数の陣中資料が埋める戦史の空白

東京神田
神保町1

青木書店

電話(03)
292-0481

男が変わる

ヤンソン由美子著

●スウエーデン
男女平等の現実

一四〇〇円

男女平等の最先進国で、今ようやく男の意識と行動が変わり始めた。その現実をビビッドに描く。

●有斐閣選書

この春はスチ花粉症が大発生!! 最新医学情報にもとづいて語る花粉症対策の決定版がこれです。
斎藤洋三著
一二〇〇円

花粉症の予防と治療

有斐閣

東京都千代田区神田神保町2

父 親

ユング心理学の視点から

A. サミュエルズ編／小川捷之監訳
「父親」とはいかなる存在か。その多様な側面を深層から検討 ■ 定価2800円

老化を探る

信濃毎日新聞社・編

ボケはなぜ起るか。老化現象や老人病を防ぐ手だてはあるか。老化をめぐる評判の新聞連載を収録。 ■ 定価1500円

紀伊國屋書店

本店：東京都新宿区新宿 3 ☎03(354)0131
出版部：東京都世田谷区桜丘5 ☎03(439)0125

生命と自然を守る抵抗の姿を
ルポと写真で伝える／

「島は売らない」と基地反対の
たたかいに立ち上った島民。
日米の強大な権力を相手に、
素手でたちむかう老若男女の
奮戦を三宅の豊かな自然とと
もに描く。 A 5判・1300円

亀井淳著／森住卓 写真

[ドキュメント]

三宅島

大月書店 東京文京本郷2-11-9
電話 03(813)4651(代)

好・評・発・売・中

日本王権論

へ討論

■網野善彦／上野千鶴子／宮田登 歴史学・民俗学・社会学の立場から天皇制の変遷とそれを支えた深層構造を解明する。16000円

子どもの犯罪と死

■山崎哲十・芹沢俊介 家庭内暴力、体罰、いじめ、自殺等、多発化する子供の事件と死を通して、家族・学校問題の核心に迫る。24000円

*

春秋社 東京都千代田区外神田
2-18-6 ☎(03)255-9611

御茶の水書房

あごら叢書
可能性としての芭蕉
——完結拒否の発想——

廣末保著 芭蕉を新たな視点から読み解き制度化された文学を超える。著者の芭蕉論考の精髓を一巻に集成。定価2600円

科学史的思考

佐々木力著 1968年から現在に至る著者の批評活動の全軌跡を収録したフレイアントなミニマ・クリティカ。定価2400円

教育危機の経済学

馬場宏二著 会社主義と富裕化願望につき動かされ我々が失ったものは何か。ラディカルなニッポン社会論。定価2000円

ローザ・ルクセンブルク

——その思想と生涯——

フレリリと著／伊藤訳 今世紀の比類なき女性革命家の全体像を彼女と共に開った著者が描く評伝の決定版。定価2600円

東京・千代田・九段北1-8-2 ☎03-265-5746

好評ビデオ

●指導・斎藤稔正
カラー50分 定価二一、〇〇〇円

催眠誘導法の実際

☆深い集中と熱い共感に包まれた感動の記録
カラー50分 定価二一、〇〇〇円

自分に出会う 他者に出会う

竹内敏晴
レッスン記録

創元社

大阪市北区西天満1-4-2
東京都新宿区山吹町334-11

動く遺伝子

トウモロコシとノーベル賞
ケラー 石館訳 ノーベル医学生理学
賞を受賞した独創的な女性科学者マク
リントックの人と仕事。 2000円

韓国歌謡史 1895 ~1945

朴燦鎬 民謡「アリラン」から流行歌、
発禁レコードまで、激動の時代を生きた
人々の魂が息づく決定版。 3800円

女たちの猪飼野

太田順一 キムチの匂い、とびかう朝
鮮語。この町は日本であって、日本で
はない。写真とインタビューによる大
阪・猪飼野ドキュメント。 2300円

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 (255) 4501

思考のフリースペース

久打竹村

●書きおろしエンドレスシリーズ「好評既刊」
粉川哲夫「スペースを生きる思想」
樺山紘二「歴史のなかのからだ」
石弘之「地球生態系の危機」
小此木啓吾「一・五の時代」
大島清「オスはどようして男になったか」
前田哲男「核戦争シミュレーション」

1200 1200 980 1100 1200 980

筑摩書房 / 〒101東京神田小川町2-8

人間関係の分解図

齊藤 勇著 ものではなく心の時代と
いわれ、人間関係がより重視される時
代に、複雑な人間関係についての知識
を分りやすく図解して提供。 1500円

青年期の意識構造

その変容と多様化

加藤隆勝著 現代青年の自己像、異性
との出会いの過程、価値観・人生観の
特質等の様相を描き出し、青年期の変
容とその背景について考察。 2300円

誠信書房 東京都文京区大塚3-20-6
TEL.03-946-5666

非
売
品

昭和63年1月30日発行 年4回発行 第50号

発行所 人文会 みすず書房内

〒113 東京都文京区本郷5-32-21

(113-91東京都文京区 本郷局私書函89号)

回覧者印	回覧者印	回覧者印	回覧者印